



安曇野市の埋蔵文化財第9集

平成26年度

安曇野市埋蔵文化財調査報告書

明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査

2016. 3

安曇野市教育委員会





明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査出土小玉



明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査C区南壁



明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査C区4d層（東から）



明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査C区4d層炭化物検出状況

## 序

埋蔵文化財は安曇野市の歴史を解明するためにはかけがえのない市民共有の財産です。近年、安曇野市では周知の埋蔵文化財包蔵地内での工事件数が増加しており、この状況に比例して発掘調査等の埋蔵文化財保護措置の件数も増加しています。安曇野市教育委員会では、埋蔵文化財保護措置を通じて、地域の歴史資料の蓄積及び調査成果の公開普及に努めています。

本書では、平成26年度に実施された試掘・工事立会等の調査及び明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査の成果をまとめました。

このうち、明科遺跡群古殿屋敷の発掘調査では調査面積がごく狭小であったにもかかわらず、古墳時代後期の炭化物集積層の確認や玉類の出土といった極めて貴重な出土品が良好な状態で発掘されるなどの成果を得ることができました。この遺跡の大部分は工事の影響を受けず、現状保存されているため、将来の発掘調査等でさらなる発見があるであろうことが期待されます。

最後になりますが、本書をまとめるにあたり多くの皆様、諸機関にご協力とご指導を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。本書掲載の調査成果が多くの市民に活用され、広く安曇野の歴史・文化解明に役立つことを祈念し序とさせていただきます。

平成28年（2016）3月

安曇野市教育委員会  
教育長 橋渡 勝也

## 例 言

- 1 本書は長野県安曇野市で平成26年度に実施された埋蔵文化財保護事業及び発掘調査の報告書である。  
なお、本書所収の発掘調査は以下のとおりである。  
明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査
- 2 本書掲載の調査は、安曇野市教育委員会が実施し、安曇野市が費用負担した。調査体制は各章の通りである。
- 3 本書の編集は安曇野市教育委員会事務局が行った。執筆は土屋和章、松田洋輔が担当した。執筆分担は以下のとおりである。  
松田洋輔：第2章6 土屋和章：前記以外
- 4 本書で使用した主な引用・参考文献は巻末に一括して掲載した。
- 5 出土した玉類の材質の鑑定は浅川行雄氏に依頼した。
- 6 炭化材等の自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 7 本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。
- 8 調査全般にわたり以下の方々からご指導・ご協力をいただきました。記して感謝いたします。(敬称略・五十音順)  
浅川 行雄、安曇野市豊科郷土博物館、百瀬 新治、山田 真一

## 凡 例

- 1 発掘調査及び整理作業に際し、遺跡略号として遺跡名のアルファベットを遺物注記等に使用した。  
明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査：FTY14
- 2 調査及び本書での遺構名は、次の略号を使用している。  
SB：竪穴建物跡、竪穴状遺構 P：ピット
- 3 遺構・遺物の法量の表示で、残存箇所のみを計測した場合は（ ）で示した。
- 4 本書実測図で遺物は次のように表現した。また、縮尺は各図に示した。  
土師器：断面無地 黒色処理：トーン
- 5 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 6 本書では、平成17年10月1日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「南安曇郡」、「穂高町」のように表記した。
- 7 文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。  
埋蔵文化財センター：埋文センター 教育委員会：教委

# 目 次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・挿表目次

第1章 平成26年度埋蔵文化財保護事業	1
1 埋蔵文化財保護事業の概要	1
2 試掘調査等	9
第2章 明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査	23
1 調査の契機と経過	23
2 遺跡の位置と環境	25
3 調査の方法	28
4 層序	29
5 遺構	30
6 遺物	34
7 自然科学分析	36
8 調査の総括	44
写真図版	45
引用・参考文献	47
調査報告書抄録	

## 挿図目次

第1図	平成26年度発掘調査等位置図 (北部)……………	2	第15図	新林遺跡試掘位置図……………	20
第2図	平成26年度発掘調査等位置図 (南部)……………	4	第16図	国営アルプスあづみの公園堀金・穂 高Ⅲ期地区試掘位置図……………	21
第3図	土橋遺跡試掘位置図……………	9	第17図	ハツコ遺跡試掘位置図……………	22
第4図	岩原遺跡試掘位置図……………	10	第18図	古殿屋敷付近の遺跡……………	27
第5図	国営アルプスあづみの公園堀金・穂 高Ⅲ期地区試掘位置図……………	11	第19図	古殿屋敷調査区全体図……………	28
第6図	追堀遺跡試掘位置図……………	12	第20図	A区完掘図……………	31
第7図	追堀遺跡試掘トレンチ配置図……………	13	第21図	B区・C区完掘図……………	32
第8図	追堀遺跡試掘・立会調査出土土器……………	13	第22図	C区4b・4c層……………	33
第9図	穂高古墳群F8号墳試掘位置図……………	14	第23図	C区4d層……………	33
第10図	経営体育成基盤整備事業烏川地区試 掘位置図……………	15	第24図	出土土器……………	34
第11図	耳塚公民館横遺跡試掘位置図……………	16	第25図	出土玉類……………	35
第12図	円満寺跡試掘位置図……………	17	第26図	暦年較正結果……………	39
第13図	三柱神社東遺跡試掘位置図……………	18	第27図	古殿屋敷第2次発掘調査出土の炭化 材の走査型電子顕微鏡写真……………	41
第14図	矢原宮地遺跡試掘位置図……………	19	第28図	古殿屋敷C区4d層から出土した炭 化種実……………	43

## 挿表目次

第1表	平成26年度発掘調査等一覧……………	6	第6表	出土玉類観察表……………	35
第2表	追堀遺跡試掘・立会調査出土土器観 察表……………	13	第7表	測定試料及び処理……………	37
第3表	古殿屋敷発掘調査記録……………	26	第8表	放射性炭素年代測定及び暦年較正の 結果……………	38
第4表	古殿屋敷付近の遺跡……………	27	第9表	樹種同定結果一覧……………	40
第5表	出土土器観察表……………	34	第10表	古殿屋敷から出土した炭化種実……………	42



# 第1章 平成26年度埋蔵文化財保護事業

## 1 埋蔵文化財保護事業の概要

### (1) 事務局の体制

平成26年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、教育委員会事務局文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局 安曇野市教育委員会事務局 文化課

那須野 雅好（文化課長）、山下 泰永（文化財保護係長）

土屋 和章、丸山 五月（以上、文化財保護係）

### (2) 地理的環境と遺跡の立地

安曇野市は平成17年（2005）10月1日に豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の5町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨山脈、東は筑摩山地に囲まれる。松本盆地は構造性の盆地で、縁辺部から流れる複数の河川が運搬した堆積物により形成されている。

安曇野市内に所在する遺跡は現在約400箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、確認されている時代としては縄文時代早期から現代に至る。縄文時代の遺跡は、主として北アルプス山麓の扇状地扇頂付近及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査からは縄文中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇端へ移る。生業形態の変化が遺跡立地の変化に影響している可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が北アルプス山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科廃寺と呼称される古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢の山間部一帯から隣接する松本市域にかけて須恵器窯群が築かれている。

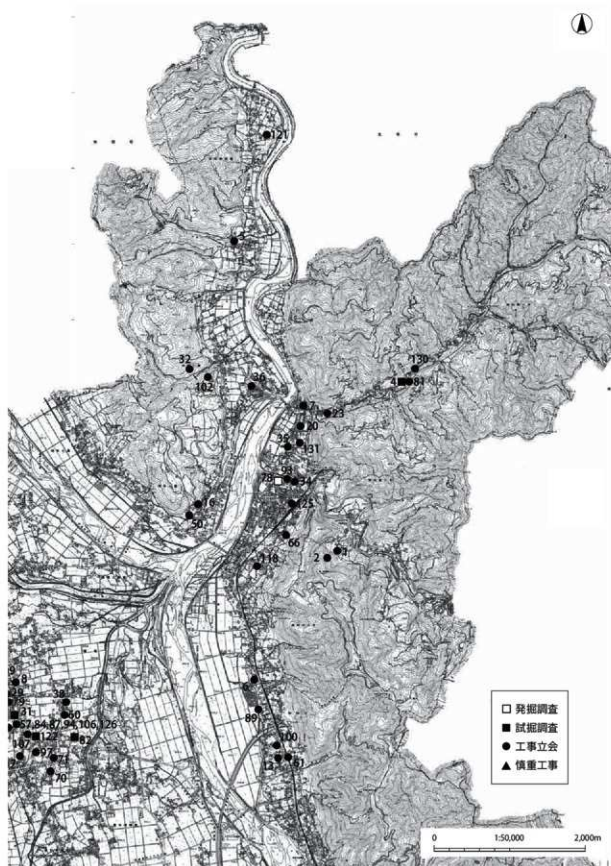
### (3) 平成26年度の概要

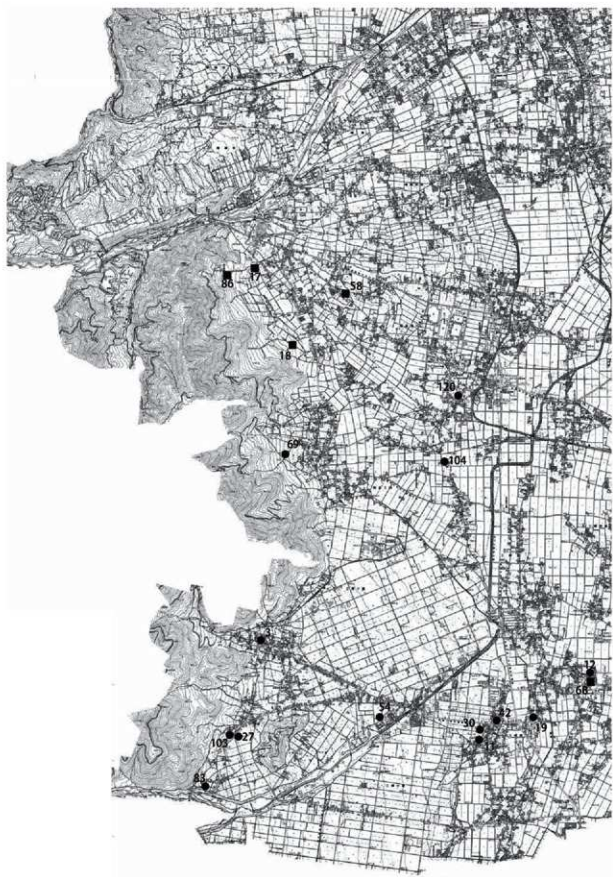
平成26年度の安曇野市における発掘調査等の一覧は第1表のとおりで全132件であった。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計131件で、内訳は発掘調査2件、試掘13件、工事立会115件、慎重工事1件となっている。それぞれの位置は第1～2図に示す。試掘調査の概要は次項で取り上げた。

また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業のほかには、國學院大学文学部考古学研究室によって穂高古墳群F9号墳の学術発掘が実施されている。

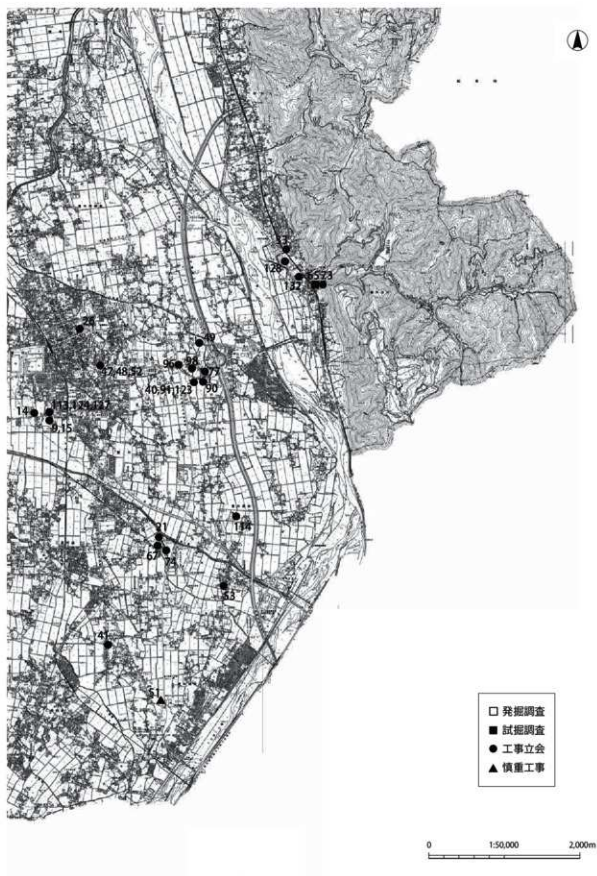


第1図 平成26年度発掘調査等位置図（北部）





第2図 平成26年度発掘調査等位置図(南部)



第1表 平成26年度発掘調査等一覧

No.	調査	道跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●1	工事立会	城下道跡	明科中川手5448番外	その他開発	20140115	20140401	市教委
●2	工事立会	塔ノ原城址	明科中川手5448番外	その他開発	20140115	20140401	市教委
●3	工事立会	才の神道跡	三郷小倉429番1	その他開発	20140407	20140407	市教委
■4	試掘	土橋道跡	明科東川手12720番3外1筆	道路	20140409	20140409	市教委
●5	工事立会	寺裏道跡	明科南陸郷845番2	その他開発	20140411	20140411	市教委
●6	工事立会	給然寺古屋敷道跡	明科中川手119番1	その他開発	20140411	20140411	市教委
●7	工事立会	木戸橋ノ爪道跡	明科東川手13346番1	その他開発	20140411	20140411	市教委
●8	工事立会	藤塚道跡	穂高6721番	道路	20140424	20140424	市教委
●9	工事立会	成相氏館跡	豊科1909番2外	個人住宅	20140416	20140425	市教委
●10	工事立会	新林道跡	穂高牧1864番11	個人住宅	20140426	20140426	市教委
●11	工事立会	堂原道跡	三郷温4370番	その他の建物	20140414	20140522	市教委
●12	工事立会	三柱神社東道跡	三郷明盛4821番1	個人住宅	20140514	20140523	市教委
●13	工事立会	光道跡群中条道跡	明科光830番1外1筆	その他開発	20140527	20140528	市教委
●14	工事立会	大海渡道跡	豊科2154番1	個人住宅兼工場又は店舗	20140606	20140606	市教委
●15	工事立会	成相氏館跡	豊科1908番1	その他の建物	20140606	20140606	市教委
●16	工事立会	やしき道跡	明科七貫6179番2外6筆	道路	20140606	20140606	市教委
■17	試掘	岩原道跡	堀金烏川183番	公園造成	20140609	20140609	市教委
■18	試掘	道跡外	堀金烏川482番7外	公園造成	20140610	20140613	市教委
●19	工事立会	栗の木下道跡	三郷温2193番1	個人住宅	20140619	20140619	市教委
●20	工事立会	潮道跡群塩田若宮道跡	明科東川手785番2外2筆	個人住宅	20140621	20140621	市教委
●21	工事立会	日光寺跡	豊科1360番外1筆	その他の建物	20140623	20140624	市教委
●22	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1652番1	宅地造成	20140619	20140625	市教委
●23	工事立会	潮道跡群三五山道跡	明科東川手13228番1先外	ガス・水道・電気等	20140630	20140630	市教委
●24	工事立会	寺島畑道跡	穂高有明7903番1外1筆	個人住宅	20140701	20140701	市教委
●25	工事立会	宮脇道跡	穂高10106番8	個人住宅兼工場又は店舗	20140701	20140701	市教委
●26	工事立会	法蔵寺館跡	豊科5719番	公園造成	20140704	20140704	市教委
●27	工事立会	中沢道跡	三郷小倉1588番1	公園造成	20140704	20140704	市教委
●28	工事立会	穂高神社境内道跡	穂高5960番3外4筆	公園造成	20140704	20140704	市教委
●29	工事立会	藤塚道跡	穂高6765番1	公園造成	20140704	20140704	市教委
●30	工事立会	平福寺付近古墳	三郷温4188番1外2筆	公園造成	20140704	20140704	市教委
■31	試掘	追廻道跡	穂高柏原1661番2外1筆	宅地造成	20140708	20140708	市教委
●32	工事立会	萩原城址	明科七貫10792番3外	その他開発	20131212	20140709	市教委
●33	工事立会	町田道跡	豊科田沢4396番1外1筆	個人住宅	20140605	20140710	市教委
●34	工事立会	明科道跡群栗町道跡	明科中川手4211番1	その他開発	20140715	20140715	市教委
●35	工事立会	潮道跡群浦田道跡	明科東川手406番3	その他開発	20140715	20140715	市教委
●36	工事立会	みどりヶ丘道跡	明科七貫7222番74	その他開発	20140715	20140715	市教委
●37	工事立会	藤塚道跡	穂高6802番	その他の建物	20140714	20140715	市教委
●38	工事立会	堀之内道跡	穂高1707番3	店舗	20140707	20140716	市教委
●39	工事立会	藤塚道跡	穂高6839番	学校建設	20140716	20140716	市教委
●40	工事立会	上手木戸道跡	豊科南穂高294番1外6筆	その他開発	20140714	20140722	市教委
●41	工事立会	十王堂道跡	豊科高家6134番1先外	道路	20140724	20140724	市教委
●42	工事立会	上総屋敷道跡	三郷温4325番1	その他の建物	20140728	20140728	市教委
●43	工事立会	穂高神社境内道跡	穂高6658番	その他開発	20140730	20140730	市教委
●44	工事立会	柏原道跡	穂高柏原1788番1外2筆	個人住宅	20140811	20140811	市教委
□45	発掘調査	穂高古墳群F9号墳	穂高柏原3653番	学術研究	20140806	20140815	國學院大學

No.	調査	道路	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●46	工事立会	宮脇道跡	穂高6577番14の一部	個人住宅	20140819	20140819	市教委
●47	工事立会	成相道跡	豊科4368番1の一部	その他開発	20140822	20140827	市教委
●48	工事立会	成相道跡	豊科4368番1の一部	その他開発	20140822	20140827	市教委
●49	工事立会	上手木戸道跡	豊科南穂高1115番付近	道路	20140829	20140829	市教委
●50	工事立会	やしき道跡	明科七貫6188番5	その他開発	20140901	20140901	市教委
▲51	慎重工事	真々郡巾下道跡	豊科高家5085番2	その他開発	20140901	20140901	市教委
●52	工事立会	成相道跡	豊科4368番1	その他開発	20140903	20140903	市教委
●53	工事立会	宮前道跡	豊科高家742番1外1筆	その他の建物	20140908	20140908	市教委
●54	工事立会	東小倉道跡	三郷小倉2523番先外	ガス・水道・電気等	20140828	20140916	市教委
●55	工事立会	新林道跡	穂高牧499番7外1筆	個人住宅	20140917	20140917	市教委
■56	試掘	穂高古墳群F8号墳	穂高柏原3692番2	道路	20140919	20140919	市教委
●57	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1661番2外1筆	宅地造成	20140919	20140922	市教委
■58	試掘	道跡外	穂高烏川1661番1外	農業基盤整備事業	20140926	20140926	市教委
●59	工事立会	等々力町中上上下道跡	穂高4603番2外5筆	道路	20141002	20141002	市教委
●60	工事立会	堀之内道跡	穂高1569番1	その他の建物	20141007	20141007	市教委
●61	工事立会	光道群中条道跡	明科光773番3	個人住宅	20141009	20141009	市教委
●62	工事立会	塚下道跡	穂高牧2335番2外25筆	その他開発	20141015	20141015	市教委
●63	工事立会	塚下道跡	穂高牧2192番2外1筆	その他開発	20141015	20141015	市教委
■64	試掘	耳塚公民館横道跡	穂高有明147番4外1筆	その他の建物	20141016	20141016	市教委
■65	試掘	円満寺跡	豊科田沢4917番1	その他開発	20141020	20141020	市教委
●66	工事立会	明科道跡群上郷道跡	明科中川手3581番	個人住宅	20141021	20141021	市教委
●67	工事立会	日光寺跡	豊科249番1外1筆	個人住宅	20141027	20141027	市教委
■68	試掘	三柱神社東道跡	三郷明盛4810番1外	その他の建物	20141028	20141028	市教委
●69	工事立会	和合田道跡 外7道跡	堀高三田4610番外	その他農業関係事業	20141104	20141104	市教委
●70	工事立会	中在道跡	穂高615番8	個人住宅	20141106	20141106	市教委
●71	工事立会	矢原五輪畑道跡	穂高813番	その他の建物	20141111	20141111	市教委
●72	工事立会	新林道跡	穂高牧497番11先外	その他開発	20141112	20141112	市教委
●73	工事立会	円満寺跡	豊科田沢4917番1	その他開発	20141105	20141112	市教委
●74	工事立会	日光寺跡	豊科1354番1	個人住宅	20141122	20141122	市教委
●75	工事立会	野辺道跡	穂高有明2754番4外2筆	その他の建物	20141126	20141126	市教委
□76	発掘調査	芝宮南道跡	穂高7181番2外	その他の建物	20141111	20141128	市教委
●77	工事立会	上手木戸道跡	豊科南穂高213番1の一部	個人住宅	20141204	20141204	市教委
□78	発掘調査	明科道跡群古殿屋敷	明科中川手4250番5外	その他の建物	20141126	20141209	市教委
●79	工事立会	藤塚道跡	穂高6735番3外3筆	その他の建物	20141209	20141209	市教委
●80	工事立会	貝梅道下道跡	穂高5009番20	個人住宅	20141210	20141210	市教委
●81	工事立会	土橋道跡	明科東川手12285番1B外	道路	20141211	20141211	市教委
■82	試掘	矢原宮地道跡	穂高1099番1	個人住宅	20141212	20141212	市教委
●83	工事立会	黒沢浄水場東道跡	三郷小倉2613番2先外	ガス・水道・電気等	20141216	20141216	市教委
●84	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1661番5	個人住宅	20141217	20141218	市教委
■85	試掘	新林道跡	穂高牧1856番1	その他の建物	20141218	20141218	市教委
■86	試掘	道跡外	堀高烏川115番2外	公園造成	20141222	20141222	市教委
●87	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1661番10	個人住宅	20150108	20150108	市教委
●88	工事立会	南原道跡	穂高6906番3	個人住宅	20150109	20150109	市教委
●89	工事立会	光道群北村道跡	明科光168番の一部	個人住宅	20150113	20150113	市教委
●90	工事立会	上手木戸道跡	豊科南穂高236番18先外	道路	20150117	20150117	市教委

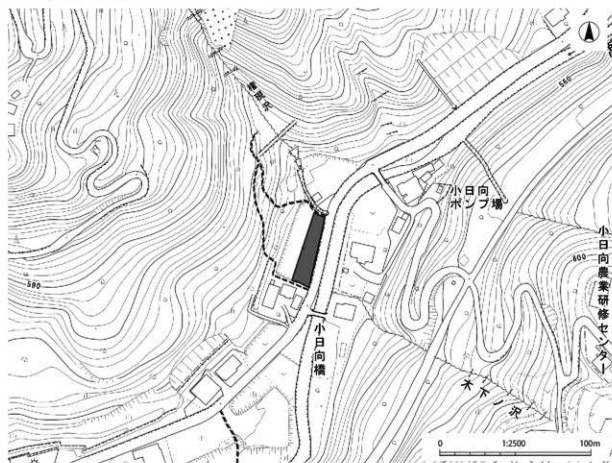
第1章 平成26年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	道跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●91	工事立会	上手木戸道跡	魚科南穂高294番19	個人住宅	20150119	20150119	市教委
●92	工事立会	草深道跡	穂高牧920番先外	その他開発	20150121	20150121	市教委
●93	工事立会	明科道跡群古殿屋敷	明科中川手4236番1外1第	個人住宅	20150126	20150127	市教委
●94	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1661番7	個人住宅	20150127	20150127	市教委
●95	工事立会	堰下道跡	穂高牧2311番先外	その他開発	20150121	20150203	市教委
●96	工事立会	上手木戸道跡 外1道跡	魚科3522番付近	道路	20141215	20150204	市教委
●97	工事立会	矢原権現池道跡	穂高996番付近	その他の建物	20150309	20150309	市教委
●98	工事立会	上手木戸道跡	魚科南穂高249番3	個人住宅	20150309	20150309	市教委
●99	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1652番2外1第	個人住宅	20150309	20150309	市教委
●100	工事立会	光道跡群中東道跡	明科光610番1外8第	その他の建物	20150210	20150210	市教委
●101	工事立会	貝極道下道跡	穂高5009番21	個人住宅	20150212	20150212	市教委
●102	工事立会	宮原道跡	明科七貫7954番3先	ガス・水道・電気等	20150212	20150212	市教委
●103	工事立会	中沢道跡	三郷小倉2366番1先外	河川	20150213	20150213	市教委
●104	工事立会	堀の内道跡	福金三田898番4	個人住宅	20150210	20150216	市教委
●105	工事立会	新林道跡	穂高牧1880番7外1第	個人住宅	20150218	20150218	市教委
●106	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1661番6	個人住宅	20150220	20150220	市教委
●107	工事立会	ハツコ道跡	穂高1456番付近	その他の建物	20150224	20150224	市教委
●108	工事立会	藤塚道跡	穂高6815番4外2第	個人住宅	20150220	20150224	市教委
●109	工事立会	藤塚道跡	穂高6814番12	個人住宅	20150225	20150225	市教委
●110	工事立会	他谷道跡	穂高牧946番付近	その他の建物	20150227	20150227	市教委
●111	工事立会	高下道跡	穂高有明2289番2外	道路	20150227	20150227	市教委
●112	工事立会	寺島畑道跡	穂高有明7949番6	個人住宅	20150227	20150227	市教委
●113	工事立会	大海渡道跡	魚科2198番1外3第	その他開発	20150304	20150304	市教委
●114	工事立会	小海渡道跡	魚科高家1455番1	その他の建物	20150304	20150304	市教委
●115	工事立会	穂高神社境内道跡	穂高6015番16外	その他開発	20150306	20150310	市教委
●116	工事立会	寺島畑道跡	穂高牧1490番7	個人住宅	20150312	20150316	市教委
●117	工事立会	矢原権現池道跡	穂高柏原929番2	個人住宅	20150316	20150316	市教委
●118	工事立会	上手屋敷道跡	明科中川手2694番外1第	その他開発	20150317	20150317	市教委
●119	工事立会	大坪沢道跡	穂高柏原1725番	個人住宅	20150318	20150318	市教委
●120	工事立会	上瀬原屋敷跡	福金烏川2387番1	その他開発	20150319	20150319	市教委
●121	工事立会	北原道跡	明科南除郷2979番1の内	その他の建物	20150320	20150320	市教委
■122	試掘	ハツコ道跡	穂高1377番1	工場、店舗	20150320	20150320	市教委
●123	工事立会	上手木戸道跡	魚科南穂高294番15	個人住宅	20150323	20150323	市教委
●124	工事立会	大海渡道跡	魚科2198番1外3第	その他の建物、ガス・水道・電気等	20150323	20150323	市教委
●125	工事立会	明科道跡群栄町道跡	明科中川手3994番2	その他開発	20150324	20150324	市教委
●126	工事立会	追廻道跡	穂高柏原1661番3	個人住宅	20150325	20150325	市教委
●127	工事立会	大海渡道跡	魚科2198番4	その他開発	20150325	20150325	市教委
●128	工事立会	町田道跡	魚科田沢4702番4先外	その他開発	20150316	20150325	市教委
●129	工事立会	穂高神社境内道跡	穂高6858番2先	その他開発	20150325	20150325	市教委
●130	工事立会	土橋道跡	明科東川手12285番3外	道路	20150326	20150327	市教委
●131	工事立会	瀬道跡群浦田道跡	明科東川手688番1の一部外	個人住宅	20150326	20150327	市教委
●132	工事立会	小瀬原道跡	魚科田沢4858番1	宅地造成	20150331	20150331	市教委



## 2 試掘調査等

## (1) 土橋遺跡（第1表■4）



第3図 土橋遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科東川手12720番3外1筆
調査期間	平成26年(2014)4月9日
調査面積	17㎡
調査契機	道路

## 概要

今回の調査では国道403号拡幅予定地に3箇所の試掘トレンチ（A～C）を設定し、土層及び遺構・遺物の検出を試みた。この遺跡は明治時代に古銭が採集された記録があるが、それ以降の遺物等採集記録はない。今回の調査で深度140cmまで調査した結果、耕作の影響を受けた土壌の下は自然堆積の粘土層が確認された。この粘土層の下は地表下120～140cm程度で砂礫層となる。

なお、今回の調査では遺構・遺物は確認されていない。

(2) 岩原遺跡 (第1表■17)



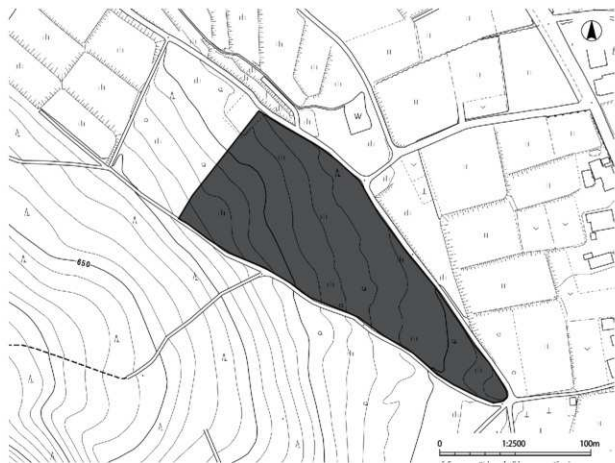
第4図 岩原遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市堀金烏川183番1
調査期間	平成26年(2014)6月9日
調査面積	65㎡
調査契機	公園造成

概要

今回の調査では国営公園造成予定地に2箇所の試掘トレンチ(A～B)を設定し、土層および遺構・遺物の検出を試みた。調査の結果、掘削上部は過去の耕地造成時に施工された盛土であることが判明した。また、この盛土より下部では、地表下約1mに存在する基盤の砂礫層までの間にシルト層も確認されたが遺構の検出及び遺物の出土はなかった。ただし、確認されたシルト層には少量の炭化物を含む箇所がある。

## 〔3〕 国営アルプスあづみの公園堀金・穂高Ⅲ期地区（遺跡外）（第1表■18）



第5図 国営アルプスあづみの公園堀金・穂高Ⅲ期地区試掘位置図

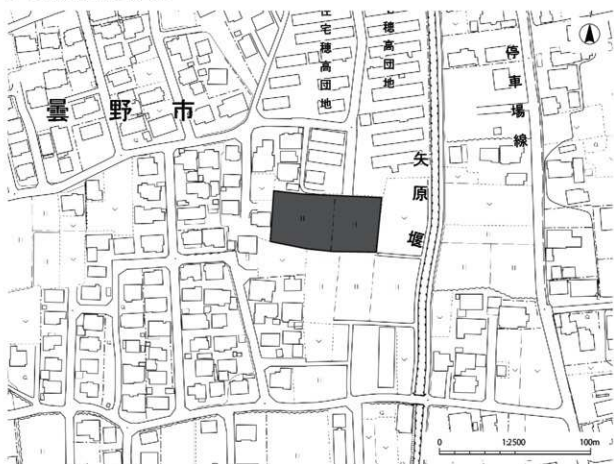
所在地	安曇野市堀金烏川482番7外
調査期間	平成26年（2014）6月10日～平成26年（2014）6月13日
調査面積	221㎡
調査契機	公園造成

## 概要

今回の調査地点は安曇野市堀金烏川の岩原区新屋地籍で、周知の埋蔵文化財包蔵地となっていない。工事計画段階から地域住民への聞き取り調査によって過去に縄文時代の遺物採集の記録があることがわかってきたため、国営公園造成に先立ち試掘調査を実施した。

調査では施工地に9箇所の試掘トレンチ（A～Iトレンチ）を設定し、土層および遺構・遺物の検出を試みた。Aトレンチ及びDトレンチではビット状の落ち込みが確認されたが、遺物等の出土はなく遺構の年代は不明である。聞き取り調査では、近現代のクワ栽培によってこれらの穴が掘られたとのことであった。また、Hトレンチは深度約140cmの大規模な人為堆積が確認されたが、これも戦後の壁土用の採土による掘削と判明した。いずれのトレンチからも近世以前の遺物は出土していない。

## (4) 追堀遺跡 (第1表■31)

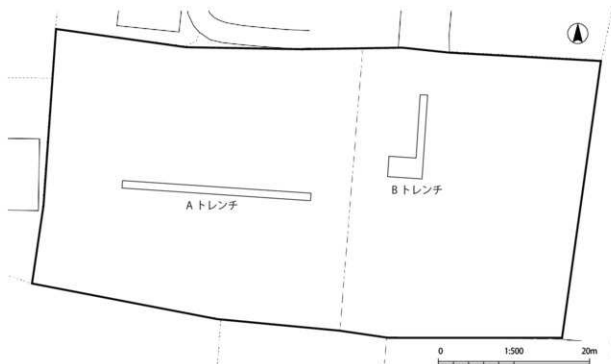


第6図 追堀遺跡試掘位置図

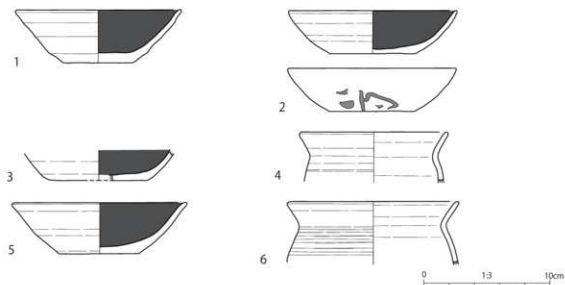
所在地	安曇野市穂高柏原1661番2外1筆
調査期間	平成26年(2014)7月8日
調査面積	53㎡
調査契機	宅地造成

## 概要

今回の調査では宅地造成予定地に2箇所の試掘トレンチ(A~B)を設定し、土層および遺構・遺物の検出を試みた。調査の結果、西側のAトレンチからは遺構・遺物ともに確認されなかったが、東側のBトレンチからは平安時代の土師器破片が出土した。このため、トレンチを拡張して遺構の検出を試みたが遺構は確認されなかった。Bトレンチは基本的には表土下に砂礫層が堆積し、一部シルト質土壌混じりの箇所から遺物が出土した。この出土範囲は狭く、この箇所に遺構が存在する可能性が高いが明確に確認はできなかった。造成工事では、このBトレンチ付近は大部分が盛土工事の計画であり、造成及びその後の通常の住宅基礎の掘削は遺物確認深度まで及ばないため、本件について発掘調査の必要はないと判断された。ただし、狭小ではあるが掘削が深い箇所については工事立会を実施し、若干の遺物が出土している。



第7図 追堀遺跡試掘トレンチ配置図

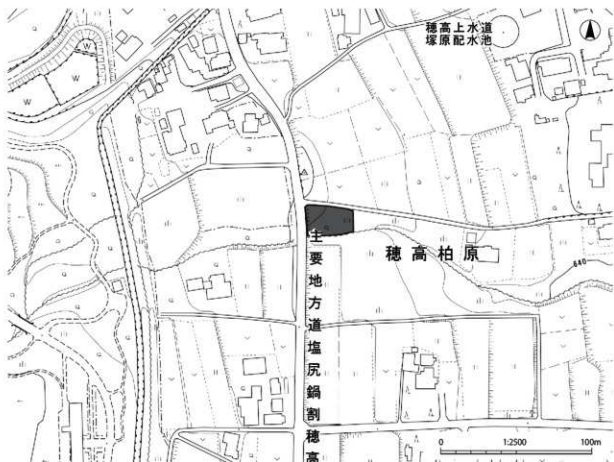


第8図 追堀遺跡試掘・立会調査出土土器

第2表 追堀遺跡試掘・立会調査出土土器観察表

No	出土位置	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	胴部径 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
										外面	内面	底部
1	試掘Bトレンチ	黒色土器	環	口縁部～底部	13.0	—	13.0	5.4	4.2	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り
2	試掘Bトレンチ	黒色土器	環	口縁部～底部	13.4	—	13.4	6.9	3.4	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り
3	試掘Bトレンチ	黒色土器	環	体部～底部	不明	—	(11.8)	7.6	(2.4)	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り
4	試掘Bトレンチ	土師器	甕	口縁部～体部上半	11.8	10.2	11.8	不明	(3.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
5	工事立会	黒色土器	環	口縁部～底部	13.8	—	13.8	6.4	4.1	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り
6	工事立会	土師器	甕	口縁部～体部上半	13.4	11.8	13.4	不明	(4.8)	カキメ	ロクロナデ	不明

(5) 穂高古墳群F8号墳 (第1表■56)



第9図 穂高古墳群F8号墳試掘位置図

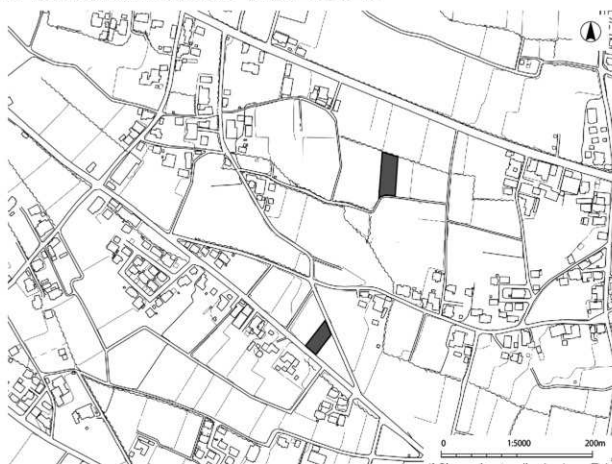
所在地	安曇野市穂高柏原3692番2
調査期間	平成26年(2014)9月19日
調査面積	20㎡
調査契機	道路

概要

穂高古墳群F8号墳は矢原沢左岸に所在する円墳と考えられるが、旧穂高町の分布調査以前に墳丘・石室は削平されており、現在は地表面に遺物が散布している(穂高町・穂高町教委1989)。

今回の調査では道路新設に関連して現場事務所設置及び資材置き場等に使用する箇所に墳丘等が存在する可能性があるため、トレンチを設定して土層観察及び遺構・遺物の検出を試みた。現在の沢沿いに東西方向のトレンチを設定したところ、観察された土層は自然堆積と考えられる砂礫層が主体であった。ただし、一部、礫の投げ込みのような人為堆積の可能性のある箇所が確認されたため、周溝等が存在する可能性もある。今回の工事では、この地点の掘削はないため埋蔵文化財に影響を与えることはなく本調査も不要と判断されるが、地表面に須恵器破片が散布していることから、今後周辺での土木工事等には留意する必要がある。

## (6) 経営体育成基盤整備事業 烏川地区 (遺跡外) (第1表■58)



第10図 経営体育成基盤整備事業烏川地区試掘位置図

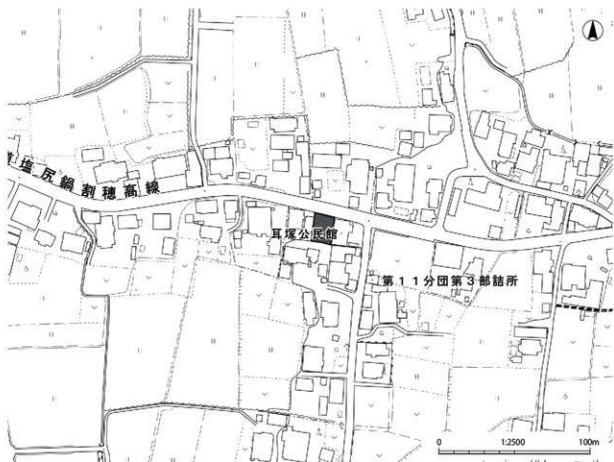
所在地	安曇野市堀金烏川1661番1外
調査期間	平成26年(2014)9月26日
調査面積	18㎡
調査契機	農業基盤整備事業

## 概要

調査地は堀金烏川で実施される経営体育成基盤整備事業烏川地区の事業地内で、立地は烏川扇状地の扇中部にあたる。基盤整備事業は複数年で実施され、事業地は広大であるが周知の埋蔵文化財包蔵地は1箇所のみである。このため、未確認の遺跡が存在する可能性があり、事業者と協議を重ねて事業地内で掘削可能な箇所において試掘調査を実施した。

今回の調査では、事業予定地に4箇所(A～D)の試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この結果、現在の耕作土・造成土の層厚は約40～90cmで、これより下層は砂層又は砂質シルトの堆積となっており遺構・遺物は確認されなかった。

(7) みまづのこうみんかんよこ 耳塚公民館横遺跡 (第1表■64)



第11図 耳塚公民館横遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高有明147番4外1筆
調査期間	平成26年(2014)10月16日
調査面積	10㎡
調査契機	公民館

概要

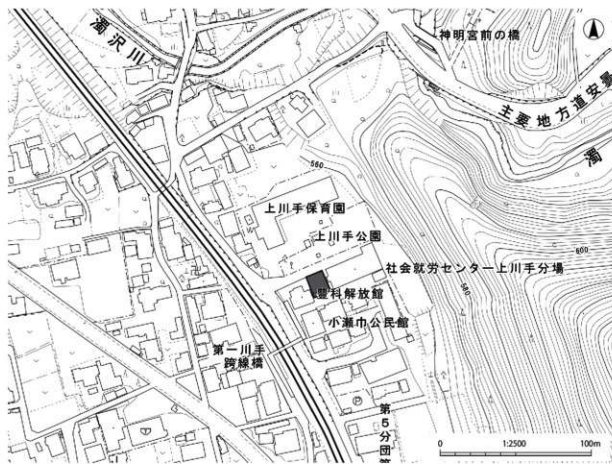
今回の調査では地区公民館建て替えに際して遺構等確認のため南北トレンチ(A、A')を設定して土層観察及び遺構・遺物の検出を試みた。

調査の結果、地表下150cm程度まで5層に分層できるシルト質土壌の堆積がみられ、それより下層では砂層となる。地表下約90cmの4層には花崗岩及び花崗岩風化砂が混入する。A'トレンチでは地表下30cmの2層を掘り込んだビットが確認された。出土遺物は骨片のみであり年代は不明だが、掘り込みは浅くレンズ状であり層的にも表土直下のため近現代の可能性が極めて高いと判断された。

この結果から、今回の調査地に近世以前の遺構等は存在していないと考えられる。



## (8) 円満寺跡 (第1表■65)



第12図 円満寺跡試掘位置図

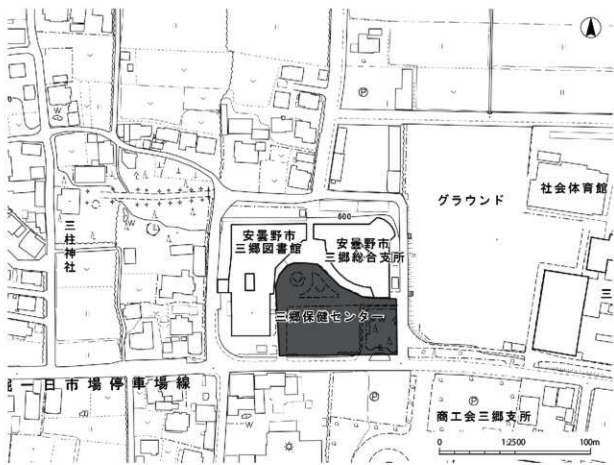
所在地	安曇野市豊科田沢4917番1
調査期間	平成26年(2014)10月20日
調査面積	3㎡
調査契機	消防水利施設

## 概要

円満寺跡は中世の寺院跡として登録される周知の埋蔵文化財包蔵地であるが、これまで本格的な調査がなされた記録はなく、詳細は不明確であった。

今回の調査では消防水利施設整備に際して遺構等確認のためトレンチを設定して土層観察および遺構・遺物の検出を試みた。調査地は以前学校用地として使用された記録があり、地表下130cm程度まで近代以降の攪乱を受けていることが判明した。この攪乱層より下層には砂質シルト層が堆積していたが、遺構等は確認されていない。工事規模が小さく試掘範囲が限られている中で、安全上の配慮から深度1.6mより深い試掘調査は実施できなかった。また、これより深い土層については、工事規模及び工事での掘削方法の制約から本調査は困難と考えられる。

(9) みはらしんじやひかし 三柱神社東遺跡 (第1表■68)



第13図 三柱神社東遺跡試掘位置図

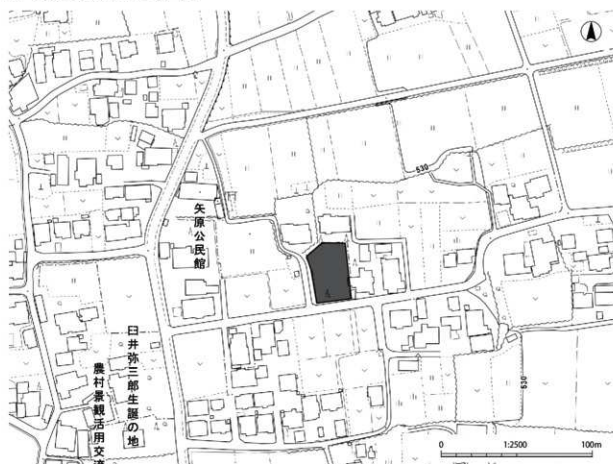
所在地	安曇野市三郷明盛4810番1外
調査期間	平成26年(2014)10月28日
調査面積	10㎡
調査契機	公共施設

概要

今回の調査では安曇野市支所等建設に際して遺構等確認のため2箇所の試掘トレンチ(A～B)を設定し、土層観察及び遺構・遺物の検出を試みた。調査の結果、Aトレンチは攪乱を受けておらず、地表下50cmで確認された3層には炭化物と摩耗した土器微細破片がごく少量含まれていた。このため、遺構検出を試みたが、遺構は確認されなかった。また、Bトレンチは現在の三郷支所建設時以降に攪乱を受けており、コンクリート片等が混入していた。

今回の調査は施設利用への配慮から小規模とならざるをえなかったため、今後も工事の進捗状況に併せて協議継続が必要である。

## (10) 矢原宮地遺跡 (第1表■82)



第14図 矢原宮地遺跡試掘位置図

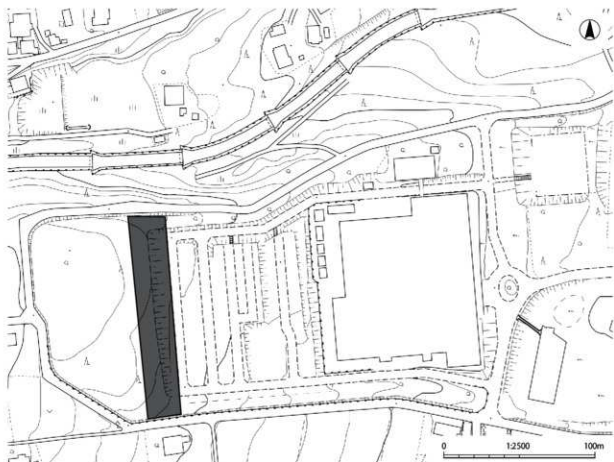
所在地	安曇野市穂高1099番1
調査期間	平成26年(2014)12月12日
調査面積	24㎡
調査契機	個人住宅

## 概要

矢原宮地遺跡は烏川扇状地扇端付近に所在する縄文時代及び奈良・平安時代の集落跡である。この遺跡を含む一帯は矢原遺跡群として認識され、古墳時代後期から平安時代にかけての集落が点在している。

今回の調査では、4箇所の試掘用トレンチ(A～D)を設定し、土層観察及び遺構・遺物の検出を試みた。調査の結果、現代の宅地造成土の下の土層は近代以降の擾乱を受けていないことが確認された。試掘トレンチのうち、Bトレンチでは地表下60cm付近に土坑状の遺構が確認され少量の土器が出土した。これらの土器は細片で無文のため時期は不明である。調査地全体でこれ以外に遺構等は確認されなかったため、個人住宅建設での住宅基礎のみの浅く狭小な掘削であれば本調査は必要ないと判断される。

(1) しんばやし 新林遺跡 (第1表■85)



第15図 新林遺跡試掘位置図

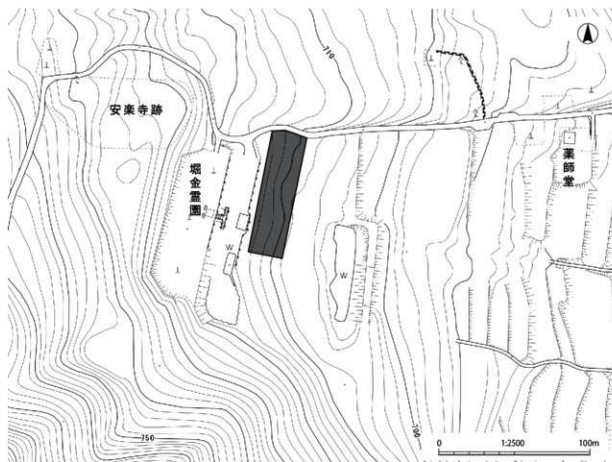
所在地	安曇野市穂高牧1856番1
調査期間	平成26年(2014)12月18日
調査面積	15㎡
調査契機	立体駐車場

概要

新林遺跡は北アルプス山麓、川窪沢川右岸の河岸段丘上に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では道路改良に際し昭和61年(1986)に発掘調査が実施され、縄文時代中期の集落跡が確認された(穂高町誌編纂委員会編1991)。

今回の試掘調査では2箇所のトレンチ(A~B)を設定し、土層観察及び遺構・遺物の検出を試みた。この調査の結果、駐車場造成土の下の土層は畑地だったころの耕作時の影響を受けているものの、比較的良好な状態で残存していることが確認できた。調査地南のBトレンチでは地表下170cm付近で、少量の縄文土器が出土した。試掘トレンチ以外の場所も埋蔵文化財が残存していると想定されるため、この場所で立体駐車場建設等の規模の大きい工事を行う場合は、発掘調査が必要と考えられる。

## (12) 国営アルプスあづみの公園堀金・穂高Ⅲ期地区（遺跡外）（第1表■86）



第16図 国営アルプスあづみの公園堀金・穂高Ⅲ期地区試掘位置図

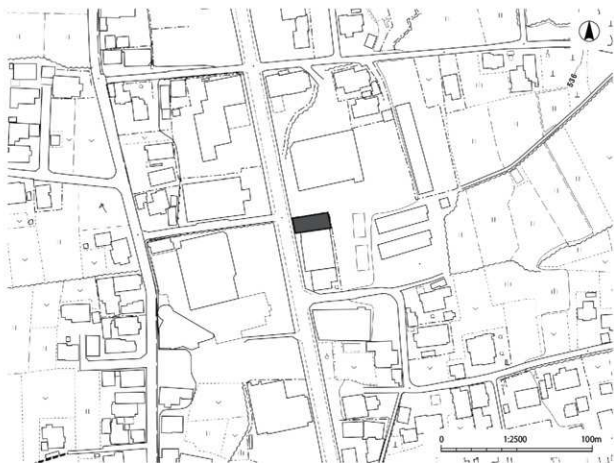
所在地	安曇野市堀金烏川115番2外
調査期間	平成26年（2014）12月22日
調査面積	18㎡
調査契機	公園造成（外周道路）

## 概要

今回の調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地となっていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地「巾上遺跡」近接地のため、国営公園造成に先立ち試掘調査を実施した。

今回の調査では、土層確認用トレンチを4箇所（A～D）設置し、遺構・遺物の有無を確認した。この結果、Bトレンチで詳細不明の落ち込みが確認され、ごく少量の微細な土器片（時期不明）が採集された。このため、Bトレンチを拡張して精査したが平面形及び堆積状況から人為的な遺構ではない可能性が高いと判断された。他のA・C・Dトレンチからは遺構・遺物は確認されていない。

(13) <sup>まち</sup>ハツコ遺跡 (第1表■122)



第17図 ハツコ遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高1377番1
調査期間	平成27年(2015)3月20日
調査面積	6㎡
調査契機	工場・店舗

概要

ハツコ遺跡は烏川扇状地扇端付近に所在する縄文時代及び奈良・平安時代及び中世の集落跡である。この遺跡は現在までに2次にわたる発掘調査が実施されており、当該期の集落の一端が確認された(安曇野市教委2010)。

今回の試掘調査では2箇所のトレンチ(A~B)を設定し、土層観察及び遺構・遺物の検出を試みた。調査の結果、A・Bトレンチともに地表下約70cmで検出されるシルト質の4層及びその下の5層に奈良・平安時代の遺物が包含される。調査面積が狭いため明確な遺構は確認されていないが、一帯に当該期の遺構が残存している可能性は高いと考えられる。このため、今回の調査地付近での土木工事等には、今後留意する必要がある。

## 第2章 明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査

### 1 調査の契機と経過

#### (1) 調査の概要

##### 明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査

所在地	長野県安曇野市明科中川手4250番5
調査面積	27㎡
調査原因	グループホームの浸透施設
発掘作業	平成26年(2014)11月26日(水)～平成26年(2014)12月9日(火)
整理作業	平成27年(2015)4月1日(水)～平成28年(2016)3月31日(木)

#### (2) 調査の契機と経過

明科遺跡群古殿屋敷(以下「古殿屋敷」とする。)第2次発掘調査はグループホーム新築の際の浸透施設設置にかかる緊急発掘調査で、事業主体者は民間事業者である。今回の調査地では平成22年度に試掘調査を実施し、地表下約90cmから古墳時代の土師器が出土し掘り込みも確認されていたため、当該期の集落跡が存在することが想定されていた。また、平成23年度には今回の調査地に東接する安曇野市明科中川手4232番1で第1次発掘調査が実施され、平安時代の木棺墓と副葬品が出土している(安曇野市教委2013)。こうした中、今回の調査地においてグループホーム建設の計画が民間事業者から提示され、平成26年(2014)6月27日(金)から遺跡保護協議を開始した。

遺跡保護協議を継続するなかで、新築建物は平屋建てで基礎等の掘削は浅く遺構面までの保護層が確保できること、また掘削自体が狭小であることが確認された。ただし、敷地内に3箇所設置する雨水浸透施設は掘削面積が3m×3mで深度2m以上のため遺構等に影響を与えることが不可避であることも同時に確認された。このため、雨水浸透施設の箇所について記録保存のための発掘調査を実施する方向で協議を継続し、平成26年(2014)9月5日付けで「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」(文化財保護法第93条第1項)が提出され、9月5日付け安曇野市教育委員会教育長の意見書を付して長野県教育委員会教育長あて送達された。これに対し、9月19日付け「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」で長野県教育委員会教育長から、この計画についての埋蔵文化財保護措置を記録作成のための発掘調査とする旨の通知があったため、この通知に基づき開発事業者と日程等の調整を継続し発掘調査を実施した。

### (3) 調査体制

調査主体 安曇野市教育委員会

調査担当者 山下 泰永（文化課文化財保護係長）

大澤 慶哲、土屋 和章（以上、文化課文化財保護係）

調査員 山下 泰永（文化課文化財保護係長）、大澤 慶哲、土屋 和章（以上、文化課文化財保護係）

作業参加者 北林 節子、松田 洋輔

事務局 安曇野市教育委員会事務局 文化課

那須野 雅好（文化課長）

山下 泰永（文化財保護係長）、土屋 和章（文化財保護係）

### (4) 発掘作業・整理作業の経過

古殿屋敷第2次発掘調査における現場での発掘作業は、平成26年（2014）11月26日（水）から12月9日（火）まで行い、整理作業は平成27年（2015）4月1日（水）から平成28年（2016）3月まで断続的に実施して、本書を発行し全事業を終了した。詳細は調査日誌抄として後述する。

### (5) 調査日誌抄

平成26年（2014）

11月26日（水）	A区、B区、C区表土除去開始。	12月4日（木）	C区検出。
11月27日（木）	A区、B区、C区検出作業開始。	12月5日（金）	C区炭化材出土面を精査。
11月28日（金）	A区、B区、C区検出作業。	12月8日（月）	C区炭化材出土面、溝遺構精査。
12月1日（月）	雨天により現場作業休み。	12月9日（火）	C区精査。現場撤収。
12月2日（火）	C区検出作業。		
12月3日（水）	B区P1精査。C区焼土、集石範囲を精査。		



## 2 遺跡の位置と環境

### (1) 地理的環境

古殿屋敷は長野県安曇野市明科中川手に所在する。安曇野市明科地域は、犀川・穂高川・高瀬川の三川が合流する地点を有する松本盆地東縁辺の最低地であり、東方には山地が広がる。明科地域の標高は海拔500～900mとなっており、大部分を占める低地性の山地と、犀川及び支流谷底部の低地から構成される。古殿屋敷の所在する明科中川手の明科地区は北を会田川、西を犀川に画される南北約1km・東西約0.5kmの河岸段丘上に展開しており、一帯は古殿屋敷のほか栄町遺跡、龍門淵遺跡、県町遺跡、明科庵寺、上郷遺跡等が密集して明科遺跡群を形成している。今回の発掘調査区はこの段丘面上に所在し、会田川に落ち込む段丘崖からやや離れた標高約520mの地点である。

### (2) 歴史的環境

古殿屋敷の所在する安曇野市明科地域は松本盆地東縁部の北側とその東方に広がる山地からなっている。犀川によって形成された河岸段丘上では豊科田沢から明科南陸郷まで遺跡が断続的に確認されており、山間部には古墳や中世の山城などが築かれている。

現在までに安曇野市内で旧石器時代の遺跡が発掘された例はないが、明科中川手の吐中遺跡で昭和31年(1956)にオオツノシカの化石が不時発見された記録がある(明科町史編纂会1984)。確実に人々の生活を確認できるのは縄文時代以降で、明科地域ではこや城や上手屋敷遺跡などで縄文早期の押型文土器片、ほうろく屋敷遺跡で絡条体圧痕土器が出土している。ほうろく屋敷遺跡は明科南陸郷に所在し集落が前・中期から後期まで継続し、明科町教育委員会による第1～4次の発掘調査によって石器製作址の可能性があると指摘されている(明科町教委2001)。また、明科光の北村遺跡では、長野自動車道建設に先立つ発掘調査で中期後葉から後期にかかる時期の土壌墓から多量の人骨が確認された(長野県埋文センター1993)。晩期には明科七貴の荒井遺跡から浮線文が施された米1式段階の鉢形土器が採集されている(明科町史編纂会1984)。

弥生時代になると、ほうろく屋敷遺跡では再葬墓4群16基とそれに伴う土器30個体あまりが出土している(明科町教委1991)。また、犀川左岸段丘上のみどりヶ丘遺跡では宅地造成に伴い発掘調査が実施されて弥生中期の土器・石器が多量に出土している(太田・河西1966)。このとき集落遺構とされる環状群の中から多量の土器・石器が確認されており、変形工字文や磨消縄文が施される土器群に太型蛤刃石斧や石包丁が伴う。

明科地域では古墳時代後期の古墳が確認されている。特に潮地籍に分布する複数の古墳は潮古墳群としてまとまりがあり、発掘調査によって7～8世紀初頭に比定されている(明科町教委2005)。この時代の集落の様相は不明確な部分が多いが、潮地籍からは土師器壺が採集されており未発掘部分に古墳時代集落が存在する可能性がある。会田川より南の明科中川手では、昭和53年(1978)の旧明科町役場議会議場建設時に実施した明科遺跡群栄町遺跡(以下「栄町遺跡」とする。)の発掘調査で6世紀後半に比定される住居跡が発掘されている(明科町史編纂会1984)。この住居跡は一辺5mほどで直径

15cm程度の川原礫を一面に敷き詰めた特異な遺構である。これ以降、栄町遺跡では現在までに4次の発掘調査が実施され古墳時代後期を中心とした集落の様相が明らかになりつつある（明科町教委2002、安曇野市教委2013、2014）。

奈良時代になると明科中川手で7世紀後半創建と考えられる寺院跡が確認されており、所在地から明科廃寺と呼ばれる。明科廃寺では平成11年（1999）に行われた発掘調査によって掘立柱建物跡3棟、布掘り基礎を持つ掘立柱建物跡1棟などに伴って多量の瓦が出土した（明科町教委2000）。昭和28年（1953）の発掘調査と併せて、古代瓦のほか鴟尾や瓦塔が確認され県内で最も古い時期の寺院のひとつとして注目される。明科廃寺の造営期間については解明されていない部分が多いが、補修瓦の様相などから平安時代までは同地で存続していたものと考えられている。奈良・平安時代は明科地域全域で集落が確認される時期でもあり、開発が広範囲に及んでいったといえる。

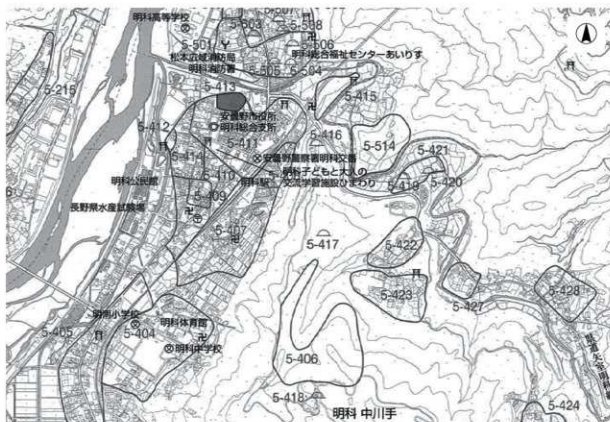
明科地域には中世の城館跡が多く残されており、こや城、茶臼山遺跡、上手屋敷遺跡、塔ノ原城址などで遺物の出土がある。このうち塔原氏居館跡とされる上手屋敷遺跡は平成元年（1989）と平成15年（2003）に発掘調査が実施され、内耳土器や青磁碗のほか安山岩製の宝篋印塔相輪などが出土した（明科町教委1979、明科町史編纂会1984、明科町教委2004）。

### (3) 古殿屋敷の概要

古殿屋敷では今回までに2次にわたる発掘調査が実施されている。隣接する栄町遺跡の発掘調査成果と併せて、この付近一帯には古墳時代中～後期の集落跡が存在したことが判明してきた。

第3表 古殿屋敷発掘調査記録

次数	調査年	調査原因	遺構・遺物の概要	文献
第1次	平成23年	排水路布設	平安時代木棺墓1、青銅製八稜鏡1、 緑釉陶器、灰釉陶器、土師器	安曇野市教委2013
第2次	平成26年	浸透施設設置	焼失竪穴建物？、土師器	安曇野市教委2016（本書）



第18図 古殿屋敷付近の遺跡 (1/17,500)

第4表 古殿屋敷付近の遺跡

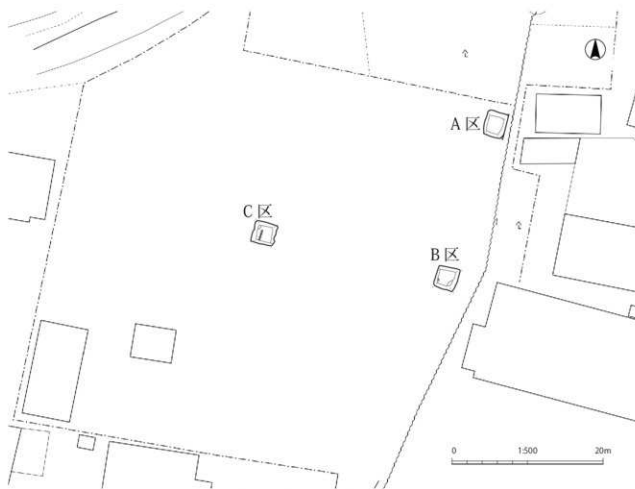
No.	遺跡名	種類	時代	No.	遺跡名	種類	時代
5-401	上手屋敷遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	5-419	武土平遺跡	敷布地	古墳・中世・近世
5-405	町屋敷遺跡	集落跡	中世・近世	5-420	武土平1号墳	古墳	古墳
5-406	塔ノ原城址	城跡	中世・近世	5-421	武土平2号墳	古墳	古墳
5-407	明科遺跡群上郷遺跡	敷布地	縄文・古墳・奈良・平安	5-422	社中遺跡	敷布地	縄文
5-408	明科遺跡群上郷古墳	古墳	古墳	5-423	城下遺跡	敷布地	縄文
5-409	明科遺跡群明科庵寺	社寺跡	古墳・奈良・平安	5-424	海渡遺跡	城跡	中世
5-410	明科遺跡群照町遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安	5-427	平上ノ段館	城跡	中世
5-411	明科遺跡群栄町遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安	5-428	中沢古屋敷	城跡	中世
5-412	明科遺跡群龍門湯遺跡	その他(祭祀)	弥生・古墳	5-501	瀬遺跡群瀬神明宮前遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安
5-413	明科遺跡群古殿屋敷	集落跡・城跡	古墳・平安・中世・近世	5-502	瀬遺跡群新原遺跡	敷布地	古墳・奈良・平安
5-414	明科遺跡群本町遺跡	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	5-503	瀬遺跡群金山塚1号墳	古墳	古墳
5-415	こや城	集落跡・城跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	5-504	瀬遺跡群金山塚2号墳	古墳	古墳
5-416	能念寺1号墳	古墳	古墳	5-505	瀬遺跡群金山塚3号墳	古墳	古墳
5-417	能念寺2号墳	古墳	古墳	5-506	瀬遺跡群金山塚4号墳	古墳	古墳
5-418	能念寺3号墳	古墳	古墳	5-507	瀬遺跡群金山塚5号墳	古墳	古墳
				5-508	瀬遺跡群お経塚古墳	古墳	古墳

### 3 調査の方法

グループホーム建設地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であり、過去の試掘調査結果から遺構が良好に残存している可能性が極めて高いため、記録保存のための発掘調査を念頭に保護協議を継続した。この結果、グループホーム本体工事では保護層が確保できるため遺構等への影響を回避できるが、雨水浸透施設設置工事での掘削によって埋蔵文化財への影響が不可避であることが確認された。このため、開発事業者と再度保護協議を実施し、雨水浸透施設設置箇所について発掘調査を実施して遺跡の記録保存をはかる方向となった。

発掘調査では、雨水浸透施設設置箇所にあい、A区、B区、C区の調査区を設定した。遺構、遺物の所在については、この調査区を基本として記載している。表土除去は、重機を用いて現代の宅地造成土を除去し、造成土下の土層の掘削及び遺構検出を人力で行った。遺物の取り上げは調査区ごとに行った。遺構観測は調査区ごとに任意の基準点を設置し、調査員・作業員が現場で簡易遺方測量した。記録写真は現場・整理ともに主としてデジタルカメラを使用した。

整理作業は現場作業終了後に室内で行い、土器等の洗浄、注記、接合、実測、属性観察、図版作成・調整、写真撮影等及び報告書作成を行った。



第19図 古殿屋敷調査区全体図

## 4 層序

本調査での土層の詳細は第20～21図のとおりである。基本土層は1～7層に大別され、このうち4層は分層して4a～d層に細別した。また、現代の造成土、B区で確認されたピット(P1)の堆積土、C区で確認された溝の堆積土は基本土層とは別に記載した。

調査地は、過去に公共施設用地等として使用されてきた宅地であるため、地表付近には現代の造成土が厚く堆積している。この造成土下には、旧耕作土が残存している箇所があった。旧耕作土は耕土a及び耕土bで、B・C区の4a層より上層で確認され、A区のみには堆積する1～3層との関係は確認できていない。

### (1) A区

A区は、調査地内北東に位置し会田川の段丘崖に最も近く、確認された層序はB・C区とは異なった特徴を有する。造成土下の1～3層は粘性の強い粘土質シルトで、A区のみには堆積していた。このうち1・2層は炭化物を含まないが、3層には少量の炭化物が包含される。4a～d層は、今回の調査で最も炭化物及び遺物が含まれていた黒褐色粘土質シルト層である。上下の堆積層と比較して、色調が黒いため当初は単層として捉えたが、調査が進む中で分層して理解された。A区には4a層のみが堆積する。これより下層では、鉄分を少量含有する6層、小礫を少量含有する7層が確認された。

### (2) B区

B区は調査地内東に位置する。B区南東は現代の擾乱を受けていたが、この擾乱以外は堆積層が良好に残存していた。西壁には5層上面を掘り込むピット(P1)が確認された。B区の層序は、造成土下に耕土aの残存が見られ、この下に4a層、5層、6層が堆積する。A～C区の中で最も湿潤な調査区で、壁面から常時水分が浸出していた。

### (3) C区

C区は調査地内中央付近に位置する。C区では、造成土下には耕土a・bが堆積する。4層は4a～d層の全てが確認された。このうち、4c層からは焼土、炭化物と土器類が確認され、4d層からは焼土及び多量の炭化材が確認された。出土状況から4層は竪穴建物跡等の遺構の覆土である可能性が高いと考えられる。4d層より下層には5層、6層が堆積していた。この6層上面からは溝状遺構が掘り込まれていた。

## 5 遺構

古殿屋敷第2次発掘調査では、A～C区の各調査区の調査面積が狭小であったため明確な遺構はB区検出のピット（P1）及びC区6層上面から掘り込まれる溝状の遺構のみである。ただし、C区4層からは、若干量の土器片と多量の炭化材が出土しているため堅穴建物跡等の覆土であると考えられ、C区自体が遺構内である可能性が高い。

### (1) A区

A区は会田川河岸段丘に最も近く、堆積は斜面堆積に近い状況であった。A区からは明確な遺構は検出されていない。ただし、C区で遺構覆土の可能性が高い4a層は確認された。

### (2) B区

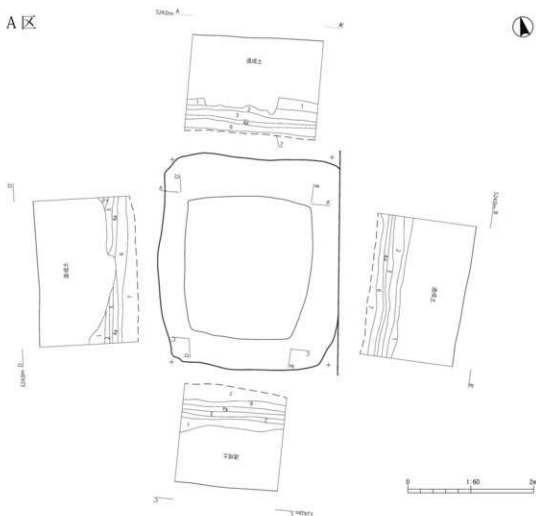
B区は調査地内東に位置し、調査区内南東に攪乱を受けている。B区西壁からは直径55cmのピット（P1）が5層上面から掘り込まれていた。調査区が狭小であり、他にピット等は確認されていないため掘立柱建物跡を構成するかどうかは不明である。

### (3) C区

C区は調査地内中央付近に位置し、過去の試掘調査の結果等から今回の調査区のうちで最も遺構の存在する可能性が高い場所である。調査区が狭小であったため、明確に掘り込みを確認できる遺構は6層上面から掘り込まれた溝状遺構のみであった。

ただし、4a～d層は黒味を帯びる粘土質シルト層で、炭化物及び土器片が包含される。このうち下半である4c～d層からは一定程度の土器片及び炭化物が出土している。4c層には広範囲に炭化物混入土が分布し、部分的に焼土が確認された。4d層からは多量の炭化材が確認された。この炭化材は板状または細い丸太状の形状で主に南北方向に長軸が来るように分布している。出土炭化材2点について樹種同定を行ったところコナラと同定された。調査区が狭小で調査範囲が限定的だったため調査区内で4a～d層の平面形及び断面の特徴は確認できていないが、遺物及び炭化材の出土状況から判断すると消失した堅穴建物等の遺構になる可能性が高いと考えられる。現場での精査段階で、これら4a～d層が遺構覆土である可能性を考慮し、火処や柱穴の検出を試みたが、確認されなかった。なお、4a～d層は土壌サンプリングを行い、水洗フルイを実施したところ小玉及び炭化種実が確認された。

## A区



- 1, 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
遺物、炭化物含まない  
灰褐色の粘土粒を全体に含む
- 2, 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
炭化物、遺物なし
- 3, 10YR4/4 褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
径1～3mm程度の砂粒を少量含む  
炭化物を少量含む
- 4a, 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
炭化物を全体に多く含む  
土器片を含む  
褐色土粒を含む
- 4b, 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
土器片、炭化物を全体に含む  
径5cm程度の礫を少量含む  
4a層より褐色土粒を全体に多く含む
- 4c, 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
土器片を少量含む  
炭化物を含む
- 4d, 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
焼土を所々層状に含む  
炭化材を4c層より多く含む  
土器片を少量含む

- 5, 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
全体に褐色土粒を含む  
炭化物を少量含む  
4層に似る
- 6, 10YR4/3 に近い黄褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
酸化鉄を少量含む  
砂粒を全体に含む
- 7, 10YR5/4 に近い黄褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
炭化物を少量含む  
径1～3cm程度の小礫を少量含む  
粘土 a, 10YR4/1 絶灰色耕作土  
炭化物を少量含む  
径3cm程度の小礫を少量含む  
粘土 b, 10YR4/2 灰黄褐色耕作土  
全体に酸化鉄粒を多く含む  
粘土下の次層層か?

## P1

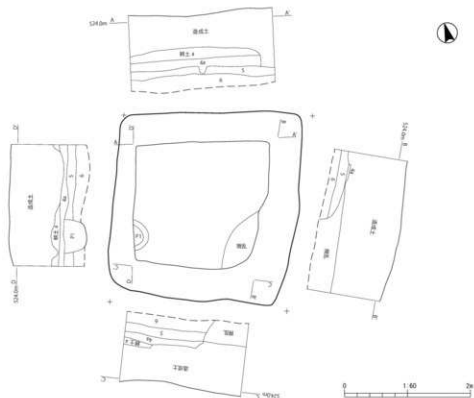
- 1, 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
土器片を含む  
径1～3cm程度の礫を少量含む

## 溝

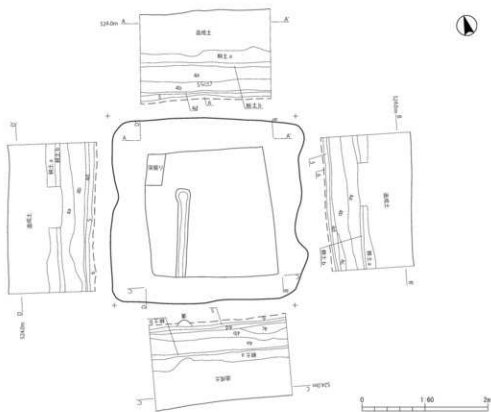
- 1, 10YR4/3 に近い黄褐色粘土質シルト、しまり強、粘性強  
炭化物を粒状に多く含む  
土器片を少量含む  
砂粒を少量含む

第20図 A区発掘図

B区

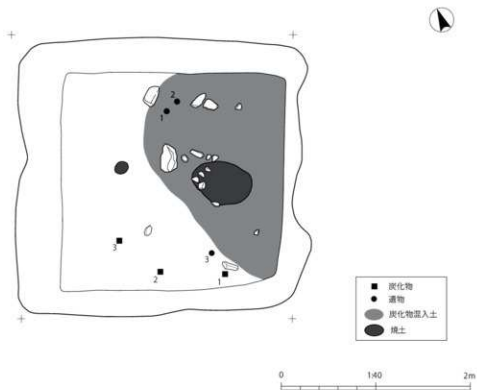


C区

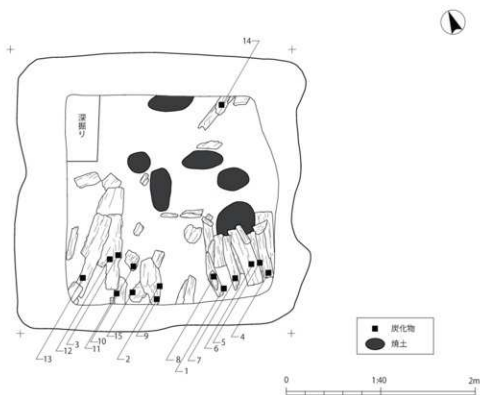


第21図 B区・C区完掘図





第22図 C区 4b・4c層



第23図 C区 4d層

## 6 遺物

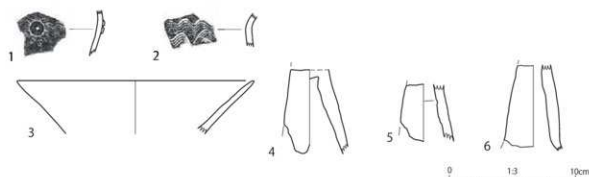
古殿屋敷第2次発掘調査の出土遺物は、土器類では土師器が主体的で須恵器は全くなく、ごく少量の弥生土器がある。土器類の出土量は全体で約4.07kgとなっており、このうちC区出土土器が約4kgで大部分を占める。また、土器類の他にC区4a~d層からは小玉が出土した。

## (1) 弥生土器

有文破片を2点確認した。これ以外に無文破片の弥生土器が存在する可能性もあるが抽出できなかった。図示した土器はいずれもC区出土である。1は櫛歯状工具で波状文が描かれ、ボタン状の貼付けがみられる。2は櫛歯波状文が施された甕の体部である。

## (2) 土師器

出土土器の主体は土師器であったが、すべてが小破片資料であり実測可能な大きさまで復元できる個体はほとんどない。また、口縁部破片も少ない。3は高坏の坏部である。坏部の体部下半は欠損しているため全体像はつかめない。推定される口縁部直径は18.8cmで、坏部は口縁にむかって直線的に開く。4~6は高坏脚部である。いずれも中空の円筒形を呈する。裾部は欠損しており、詳細な形状は不明である。



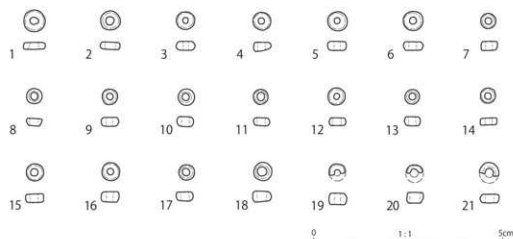
第24図 出土土器

第5表 出土土器観察表

No.	出土位置	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	頸部径 (cm)	最大径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
										外面	内面	底部
1	C区4b層	弥生土器	付付甕?	体部	-	-	不明	不明	3.5	ナデ	ナデ	不明
2	C区	弥生土器	甕	体部	-	-	不明	不明	2.5	波状文	ナデ	不明
3	C区4a層	土師器	高坏	口縁部~体部上半	18.8	-	18.8	不明	(4.2)	荒れ	荒れ	不明
4	C区	土師器	高坏	脚部	不明	-	不明	不明	(6.6)	荒れ	オサエ	不明
5	C区	土師器	高坏	脚部	不明	-	不明	不明	(4.5)	荒れ	オサエ	不明
6	C区	土師器	高坏	脚部	不明	-	不明	不明	(6.8)	荒れ	オサエ	不明

## (3) 玉類

C区4a~d層の土壌をサンプリングし、水洗フルイを実施したところ小玉が21点出土した。直径は0.42~0.57cmで、厚みは0.19~0.30cmである。穿孔は13と16は片面穿孔だったがそれ以外は両面穿孔であった。今回出土した小玉はすべて石製で、材質は碧玉及び蛇紋岩と推定される。ガラス製の小玉は出土しなかった。近隣では潮遺跡群潮神明宮前遺跡の調査の際、古墳時代後期の円墳の石室からガラス製の小玉が104点出土している（明科町教委2005）。



第25図 出土玉類

第6表 出土玉類観察表

No	出土位置	層位	種別	穿孔	石材	色調	直径 (cm)	孔径 (cm)	厚 (cm)	No	出土位置	層位	種別	種別	石材	色調	直径 (cm)	孔径 (cm)	厚 (cm)	
1	C区	4a~4d層	小玉	片面	碧玉	淡灰緑色	0.57	0.30	0.19	12	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.44	0.21	0.30	
2	C区	4a~4d層	小玉	片面	碧玉	淡灰緑色	0.52	0.31	0.17	13	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.42	0.20	0.24	
3	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.50	0.13	0.27	14	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.42	0.17	0.30	
4	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.46	0.20	0.24	15	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.45	0.21	0.21	
5	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.51	0.11	0.22	16	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.47	0.20	0.27	
6	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.51	0.17	0.22	17	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.42	0.20	0.24	
7	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.42	0.15	0.22	18	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.46	0.26	0.26	
8	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.42	0.21	0.20	19	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.48	0.16	0.30	
9	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.45	0.16	0.24	20	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.44	0.29	0.30	
10	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.44	0.21	0.26	21	C区	4a~4d層	小玉	両面	碧玉	淡灰緑色	0.50	0.23	0.23	
11	C区	4a~4d層	小玉	両面	蛇紋岩	灰黒色	0.44	0.22	0.20											

## 7 自然科学分析

古殿屋敷第2次発掘調査でC区4d層から出土した炭化物2点及び炭化種実を用いて、自然科学的手法により放射性炭素年代測定（AMS法）及び樹種同定、種実同定を実施した。



試料1 (第23図9)



試料2 (第23図11)



試料3 (炭化イネ種子)

### (1) 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林祐一

Zaur Lomtadize・黒沼保子

### はじめに

安曇野市に所在する明科遺跡群古殿屋敷から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

### 試料と方法

試料は、C区から出土した炭化材が2点（試料1：PLD-30368、試料2：PLD-30369）と、イネ炭化種子が1点（試料3：PLD-30370）の、計3点である。炭化材は2点とも部位不明で、最終形成年輪は

残存していなかった。なお、共存した土器類から、試料が出土した位置には古墳時代の遺構があったと推測されている。

測定試料の情報、調整データは表7のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 15SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

第7表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-30368	位置：C区	種類：炭化材（コナラ属コナラ節）	超音波洗浄
	試料1 (第23図9)	試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1.0N、塩酸：1.2N）
PLD-30369	位置：C区	種類：炭化材（コナラ属コナラ節）	超音波洗浄
	試料2 (第23図11)	試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1.0N、塩酸：1.2N）
PLD-30370	位置：C区床 面	種類：炭化種実（イネ種子）	超音波洗浄
	試料3	状態：dry	酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1.0N、塩酸：1.2N）

## 結果

第8表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代を、第26図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1 $\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 $\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第8表 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-30368 試料 1	-24.52 $\pm$ 0.17	1737 $\pm$ 18	1735 $\pm$ 20	255-301 cal AD (48.5%) 317-336 cal AD (19.7%)	244-354 cal AD (92.2%) 367-379 cal AD ( 3.2%)
PLD-30369 試料 2	-25.54 $\pm$ 0.17	1778 $\pm$ 18	1780 $\pm$ 20	231-258 cal AD (35.5%) 285-289 cal AD ( 3.2%) 295-322 cal AD (29.5%)	145-150 cal AD ( 0.5%) 170-194 cal AD ( 3.1%) 211-333 cal AD (91.8%)
PLD-30370 試料 3	-23.79 $\pm$ 0.17	1728 $\pm$ 19	1730 $\pm$ 20	256-299 cal AD (42.2%) 318-345 cal AD (26.0%)	252-381 cal AD (95.4%)

## 考察

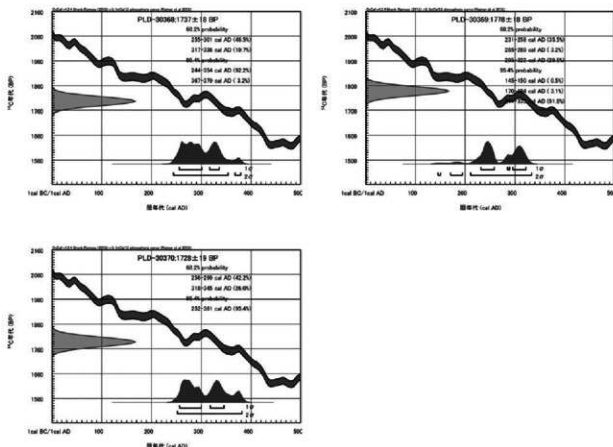
以下、各試料の暦年校正結果のうち2  $\sigma$  暦年代範囲（確率95.4%）に着目して、結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については小林（2009）、古墳時代の暦年代については赤塚（2009）を参照した。

試料1の炭化材（PLD-30368）は、244-354 cal AD（92.2%）および367-379 cal AD（3.2%）で、弥生時代後期末～古墳時代中期に相当する暦年代を示した。試料2の炭化材（PLD-30369）は、145-150 cal AD（0.5%）、170-194 cal AD（3.1%）、211-333 cal AD（91.8%）で、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する暦年代を示した。試料3のイネ炭化種子（PLD-30370）は、252-381 cal AD（95.4%）で、古墳時代前期～中期に相当する。

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の炭化材2点はいずれも最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、年代測定の結果が古木効果の影響を受け、木材が枯死もしくは伐採された年代よりもやや古い年代を示している可能性がある。一方、種実試料の場合は、測定結果は種実の結実年代を示すため、試料3のイネ炭化種子（PLD-30370）の測定結果は種実の結実年代と考えられる。

## 引用・参考文献

- 赤塚次郎 (2009) 弥生後期から古墳中期 (八王子古宮式から宇田式期) の暦年代. 日本文化財科学会第26回大会実行委員会編「日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集」: 14-20. 日本文化財科学会.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- 小林謙一 (2009) 近畿地方以東の地域への拡散. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82. 雄山閣.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3-20. 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55 (4), 1869-1887.



第26図 暦年較正結果

## (2) 明科遺跡群古殿屋敷出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

## はじめに

安曇野市に所在する明科遺跡群古殿屋敷の第2次発掘調査で出土した炭化材について、樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（第2章7(1)参照）。

## 試料と方法

試料はC区から出土した炭化材2点である。焼失住居の建築部材である可能性が高いが、調査区が狭小であるためカマドや柱穴が確認できておらず、詳細は不明である。なお、試料は明確な遺構に伴ってはいないが、相伴した土器類から、出土場所には古墳時代の遺構があったと推測されている。また、年代測定の結果、試料1は弥生時代後期末～古墳時代中期、試料2は弥生時代後期～古墳時代前期に相当する暦年代が得られた（第2章7(1)参照）。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

## 結果

樹種同定の結果、2点とも広葉樹のコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）であった。結果の一覧を第9表に示す。以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 第27図 1a-1c（試料1）、2a-2c（試料2）

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

第9表 樹種同定結果一覧

試料No.	調査略号	第23図No.	出土位置	樹種	形状	サイズ	年代測定番号
試料1	FTY14	9	C区	コナラ属コナラ節	不明	3.5×5×8 cm	PLD-30368
試料2	FTY14	11	C区	コナラ属コナラ節	不明	1.5×4×6 cm	PLD-30369



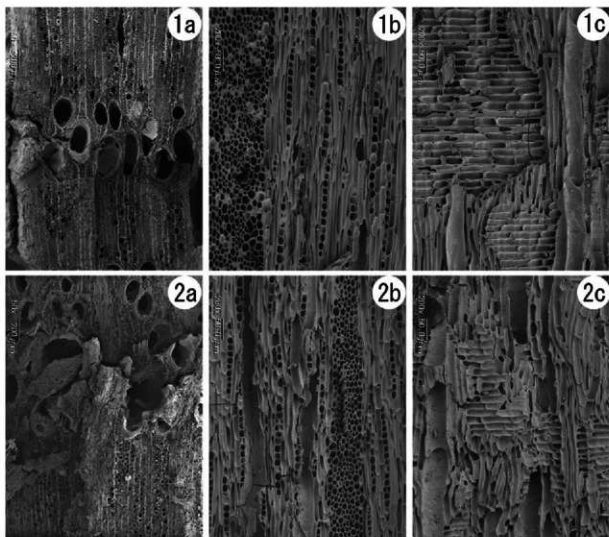
## 考察

建築部材と考えられる今回の炭化材は、2点ともコナラ節であった。長野県で確認されている古墳時代の建築部材では、コナラ節とクスギ節を主体とした木材利用が確認されており、特にコナラ節の利用が多い（伊東・山田編，2012）。今回の分析でも同様の結果が得られ、周辺の遺跡においてみられる木材利用傾向と一致している。コナラ節の材は重硬で加工困難であるが、強靱なため強度があり、建築材として有用である。また、コナラ節は日当たりの良い環境に生育する陽樹で、よく二次林を形成する。遺跡周辺の里山的な環境の場所に生育していたコナラ節の樹木が利用された可能性が考えられる。

## 引用・参考文献

平井信二（1996）木の百科，394p，朝倉書店。

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－，449p，海青社。



1a-1c. コナラ属コナラ節（試料1）、2a-2c. コナラ属コナラ節（試料2）

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

第27図 古殿屋敷第2次発掘調査出土の炭化材の走査型電子顕微鏡写真

## (3) 明科遺跡群古殿屋敷から出土した炭化種実

佐々木由香・バンドリ スタルシャン (パレオ・ラボ)

## はじめに

安曇野市明科中川手に所在する明科遺跡群古殿屋敷は、犀川右岸の会田川が犀川に流入する南岸河岸段丘上に立地する、古墳時代と平安時代の集落遺跡である。ここでは、古墳時代の堆積物から出土した炭化種実を同定し、食用などとして利用された植物あるいは遺跡周辺における栽培状況について検討する。なお、同一試料の一部を用いて放射性炭素年代測定も行われている（第2章7(1)参照）。

## 試料と方法

試料は、水洗済みの1試料である。試料は、C区4d層に堆積していた炭化物層を全量（土嚢袋94袋分）採取し、水洗して得られた炭化種実である。なお、C区4d層とされた試料には遺構名は付いていないが、焼失住居の可能性が高いと考えられている。考古学的な推定時期は、古墳時代である。

水洗は1.0mmと0.8mm目の篩を用いて、安曇野市教育委員会が行った。水洗してそれぞれの篩に残存した中から、炭化種実が肉眼で抽出された。また、さらにそれぞれの篩に残った残渣を、500ccずつ検討した。

炭化種実の抽出・計数・同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。試料は、安曇野市教育委員会に保管されている。

## 結果

同定した結果、草本植物のイネ炭化初殻・炭化小穂軸・炭化種子の1分類群が見いだされた。同定結果を第10表に示す。これ以外に、科以上の細分に必要な識別点が残存していない種実を同定不能炭化種実とした。

産出した炭化種実は以下のとおりである。

抽出済試料：イネ炭化種子の完形が93点、破片が78点得られた。

残渣1000cc中：イネ炭化初殻の破片が6点と、イネ炭化小穂軸の破片が399点、イネ炭

化種子の完形が2点と破片が356点、同定不能炭化種実の破片が1点得られた。

次に、炭化種実の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

第10表 古殿屋敷から出土した炭化種実

	地点名	FTY14	
	調査区	C区	
	採取位置	床面	
	時期	古墳時代	
分類群		抽出済試料	残渣1000cc中
イネ	炭化初殻		(6)
	炭化小穂軸		(399)
	炭化種子	93 (78)	2 (356)
同定不能	炭化種実		(1)

※カッコ内は破片数

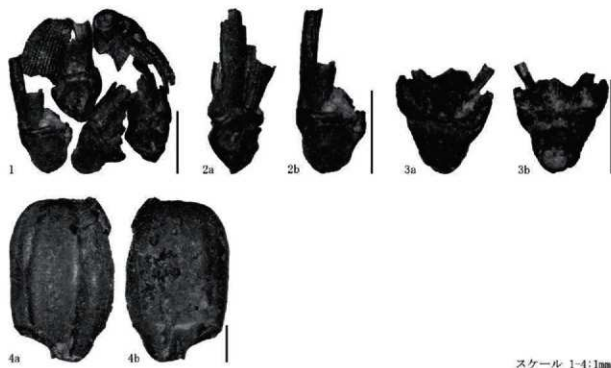
(1) イネ *Oryza sativa* L. 炭化籾殻・炭化小穂軸・炭化種子 (穎果) イネ科

初殻の側面観は定形ならば長楕円形。基部(小穂軸)は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。最大で残存長1.9mm、残存幅0.9mm。小穂軸は、残存長1.2mm、残存幅1.0mm。種子(穎果)は、上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚がついているか、胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.4mm、幅2.8mm。

## 考察

古墳時代の遺構推定されているC区4d層から回収された炭化種実を同定した結果、栽培植物で水田作物のイネが多く得られた。イネの炭化種子1点を用いた放射性炭素年代測定の結果、3世紀半ばから4世紀後半で、古墳時代前期～中期に相当する暦年代を示した(第2章7(1)参照)。

形状が判別できた種実はイネのみで、イネ以外の種実は確認できなかった。安曇野市教育委員会によって抽出された種実はイネの種子(炭化米)のみであったが、水洗後の残液1000ccの中にはイネ初殻や初付け根にあたる小穂軸が大量に含まれていた。また、一部の種子には胚がついていた。初殻や小穂軸が多量に認められた点や一部の種子に胚が残存していた点から、堆積時には初の状態であった可能性がある。小穂軸を1個体とみなすと、残液1000ccあたり約400点の初が含まれていたことになる。初のみ状態で堆積したのか、穂の状態もしくは葉が付いた状態で堆積したのかは不明であった。今後、土壌中の植物珪酸体分析を行って、イネの葉の珪酸体が確認できれば、堆積時の状態についても検討が可能になると考える。



1・2. イネ炭化籾殻、3. イネ炭化小穂軸、4. イネ炭化種子 (PLD-30370)

第28図 古殿屋敷C区4d層から出土した炭化種実

## 8 調査の総括

今回の発掘ではグループホーム建設予定地の雨水浸透施設設置位置を3箇所発掘し、古墳時代の集落跡の一部を調査した。調査区のうちC区からは、土師器と共に相当量の炭化材が出土した。調査区が狭小であったため遺構の概要は不明であるが、当該期の焼失堅穴建物等の遺構である可能性が高い。

### (1) 調査地点の帰属時期

この報告では、古殿屋敷第2次発掘調査によって出土した土器類及び炭化物の年代測定結果を掲載した。

土器のほとんどはC区出土で、これら大半は無文の小破片資料であったため時期比定は困難であったが、弥生土器の有文破片及び土師器の実測可能な復元個体からはC区の帰属時期を弥生時代後期から古墳時代中期の年代幅でとらえられる。このうち弥生土器はごく少量で、土器組成では土師器が主体的であるためC区は古墳時代に帰属すると考えられる。土層観察の結果では、A区・B区もC区と共通した堆積状況であるため、同時性が確保されると考えてよい。

C区4d層出土炭化材及びイネ炭化種子の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定でも、出土土器の年代と同様の結果が得られた。このうちイネ炭化種子が示す年代は種実の結実年代と考えられ古墳時代前～中期に相当する。

### (2) 調査の成果と今後の課題

古殿屋敷第2次発掘調査は、雨水浸透施設3箇所のための発掘調査であったが遺跡内容を推察するための多くの情報が得られた。特にC区から出土した遺物及び炭化物によって得られた成果は大きい。

C区出土炭化材の樹種同定を実施したところコナラ属コナラ節であった。コナラ節はカシワ、ミズナラ、コナラ等から構成される節で現在の遺跡周辺にはカシワ、ミズナラが確認できる。炭化材は放射状の配置で検出されており4d層及び上層の4c層には焼土も混入する。このため、炭化材は垂木等の建築部材と考えられ、この地点は火災で焼失した堅穴建物等の一部である可能性が高い。なお、古殿屋敷に隣接する栄町遺跡第3次発掘調査SB5は古墳時代後期の焼失堅穴建物跡であるが、ここで検出した建築材はクスギ節であった。

古殿屋敷では平成22年度の試掘調査で古墳時代の土器、平成23年度の第1次発掘調査では平安時代の木棺墓と副葬品が確認されている。また、古殿屋敷に近接する栄町遺跡でも4次にわたる発掘調査で古墳時代中～後期の集落が見つかっている。特に古墳時代後期については、堅穴建物跡が密集して分布していることが確認されており、集落の様相が明らかになりつつある。これに対し、この一帯での古墳時代前～中期についての遺構・遺物の出土状況は断片的で、この時代の集落分布は不明確なままである。今後の調査においても、当該期の集落形成とその変遷の解明を目的とした視点が必要とされる。



調査区全景 (東から)



調査区全景 (北東から)



A区遠景 (南から)



A区完掘 (南から)



A区南壁



B区完掘 (南から)



B区南壁



B区P1 (東から)



C区4d層（東から）



C区4d層炭化物検出状況



C区完掘



C区南壁



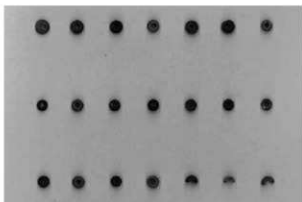
弥生土器



土師器高坏部



土師器高坏脚部



玉類

## 引用・参考文献（五十音順）

- 明科町史編纂会 1984 『明科町史 上巻』 明科町史刊行会
- 明科町教育委員会 1979 『長野県東筑摩郡明科町こや城遺跡発掘調査報告書』 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 1991 『ほうろく屋敷遺跡-川西地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書-』 明科町の埋蔵文化財第3集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2000 『明科廃寺址-個人住宅建替に伴う緊急発掘調査報告書-』 明科町の埋蔵文化財第7集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2001 『ほうろく屋敷遺跡Ⅳ-個人住宅建築工事に伴う第4次緊急発掘調査報告-』 明科町の埋蔵文化財第11集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2002 『栄町遺跡-「子どもと大人の交流学習施設」建設に伴う緊急発掘調査-』 明科町の埋蔵文化財第6集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2004 『上手屋敷遺跡第2次調査-町営住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書-』 明科町の埋蔵文化財第12集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2005 『潮神明宮前遺跡Ⅱ-町道拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査報告書-』 明科町の埋蔵文化財第13集 明科町教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2010 『平成20年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書-八ツ口遺跡・三枚橋遺跡-』 安曇野市の埋蔵文化財第3集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2013 『平成23年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書-明科遺跡群古殿屋敷（第1次）明科遺跡群栄町遺跡（第3次）-』 安曇野市の埋蔵文化財第6集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2014 『平成24年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書-明科遺跡群栄町遺跡（第4次）-』 安曇野市の埋蔵文化財第7集 安曇野市教育委員会
- 太田喜幸、河西清光 1966 『長野県東筑摩郡明科町七貴緑ヶ丘遺跡調査』 『松本諏訪地区新産都市地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書』 長野県考古学会
- 長野県埋蔵文化財センター 1993 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11 -明科町内- 北村道跡』（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14 長野県教育委員会
- 穂高町誌編纂委員会編 1991 『穂高町誌』 第2巻（歴史編上・民俗編） 穂高町誌刊行会
- 穂高町・穂高町教育委員会 1989 『穂高町の古墳群とその人々』 穂高町・穂高町教育委員会

調査報告書抄録

ふりがな	へいせい26ねんどあづみのしまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	平成26年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書							
副書名	明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査							
巻次								
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	土屋 和章, 松田 洋輔, 株式会社パレオ・ラボ							
編集機関	安曇野市教育委員会							
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL0263-71-2000							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
明科遺跡群 古殿屋敷 (第2次)	長野県安曇野市明科 中川手4250番5	20220	5-413	36° 21' 27"	137° 55' 45"	20141126 ～ 20141209	27㎡	グループ ホーム建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
明科遺跡群 古殿屋敷	集落跡	古墳時代	竪穴建物跡	弥生土器, 土師器, 小玉		C区4d層で多量の炭化材を 検出。調査区が狭小のため全 容は不明だが、焼失した竪穴 建物跡である可能性が高い。		
要約	<p>明科遺跡群古殿屋敷は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳時代の集落跡及び中近世の城館跡の複合遺跡である。この遺跡では平成23年に第1次発掘調査が実施され、平安時代の木棺墓から青銅製八棱鏡、緑釉陶器、灰釉陶器等が出土した。今回の第2次発掘調査では、グループホーム敷地の浸透施設設置場所を3箇所調査した。調査区は1箇所9㎡で全3箇所、発掘面積27㎡の小規模な調査であったが、C区4d層では多量の炭化物が確認され、この層の土壌を採集しフルイによって選別したところ21点の小玉が出土した。このことから、C区4a～d層は焼失した竪穴建物等の覆土である可能性が高い。ただし、調査区が狭小であったため、平面形や断面観察から遺構の輪郭を確認することはできていない。</p>							



安曇野市の埋蔵文化財第9集  
平成26年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書  
明科遺跡群古殿屋敷第2次発掘調査

---

発行 平成28年(2016)3月31日  
安曇野市教育委員会  
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地  
電話 0263-71-2000  
編集 安曇野市教育委員会  
印刷 藤原印刷株式会社

